



平成28年度入省 (行政) 天竜川上流河川事務所 砂防調査課 福川 湧也さん

「多くの人の幸せに貢献できる仕事をする」というのが、私の学生時代からの目標です。インフラ整備を通じて、地域の方々の生活を支える中部地方整備局に魅力を感じ、平成28年度に入局しました。

現在所属している砂防調査課は、土砂災害から地域の皆さまを守るため砂防設備の配置検討・計画を行っています。事務所がある伊那谷地方は、過去に36災害という大災害を経験しており、地域からの大きな期待に応えるため、職員は熱い想いを持って働いています。文系学部出身の私も、チーム砂防として専門性の高い事業に関わっており、チャレンジングな毎日を送っています。

この職場でなら、自分が成長することで、今より一層多くの人の幸せに繋がる仕事ができると確信しています。みなさんも一緒に中部地方整備局で、誰かの幸せに貢献しませんか？



平成17年度入省 (行政) 豊橋河川事務所 占用調整課 係長 神谷 真生さん

学生時代に、道路等のインフラの管理に携わりたいとの思いから、整備局を志望しました。

現在携わっている業務は河川の許認可業務です。例えば、洪水時に河川敷のサッカーゴール等が流され、思わぬ災害を起こすことがあります。そのような事態を防ぐために様々な法令・基準に基づき審査をする業務です。

整備局に入れば、道路を開通させたり、堤防を作ったりする大きな仕事もできますが、完成したインフラを適切に維持・管理することで地域を守っていく「インフラの番人」にもなれます。地味な仕事かもしれませんが、安心して利用できる道路や河川を守る裏方というのも、誇りある仕事だと思います。

他にも整備局には様々な分野の仕事があります。自分の得意分野を伸ばすことも、未経験の分野に挑戦することも、皆さんの意志一つで可能になる職場です。是非チーム整備局に入っていたら、一緒に働きましょう！



平成6年度入省 (行政) 愛知国道事務所 経理課 課長 河村 いづみさん

人の役に立つ仕事をずっと続けたいという思いと、元気な職場という印象から、整備局を選びました。

これまでに、総務、経理、管理、広報分野の業務を経験しました。行政職とは言っても、業務内容は幅広く、同じ業務でも条件や状況に応じた検討や判断が求められます。どの部署でも新しい知識の習得が必要で、簡単なことばかりではありませんが、頼りになる先輩や仲間を支えられ、新しいことにチャレンジし経験を積むこと、学び活かすことに喜びを感じています。

整備局は、河川、道路等の社会資本を整備し、地域のみなさんの安全で安心な暮らしを下支えする役割を担っています。そしてそれは、事務系職員と技術系職員の協力で果たしていると思います。それぞれの専門性を活かし、チーム力を発揮し、男性も女性も活躍できる元気な職場です。

地域のみなさんの生活に直結した、未来につながる仕事を、一緒にがんばりましょう！！



昭和61年度入省 (行政) 総務部 人事計画官 筧 豊勝さん

この職場に就職して33年。色々な地域で色々な仕事を経験してきました。仕事がかまうかずに悩んだときもありましたが、新しい仕事を任されて楽しくて仕方が無いときもありました。

今振り返ってみると、こんなにやりがいのある仕事はないと思っています。中部地方整備局が担っている仕事は地域の安心・安全に欠かせない仕事であり、地域の発展のためにも重要な仕事です。簡単な仕事ではないかもしれませんが、世の中のためになる、とてもやりがいのある仕事です。また、仕事はひとりで出来るものではなく多くの職員がチームとなって行うものであり、チームで取り組むからこそ、それを達成したときの喜びも大きいものだと思います。

あなたも私たちチームの一員に加わり一緒に仕事をしませんか。きっと貴方も何十年か後に、この職場で働いたことを誇りに思える時が来ると思います。

20代 係員クラス

20代、係員クラスは 関係部署との連絡調整や上司の指示に従い業務に携わります。

30代 係長クラス

30代、係長クラスは 資料作成や関係部署との連絡調整といった具体的な業務の責任者となります。部下への指導も重要な役割です。

40代 管理職クラス

40代、管理職クラスは 課の責任者として、課全体のマネジメントを行います。

50代 幹部クラス

50代、幹部クラスは 局や事務所の責任者として組織の意思決定や指揮・命令を行います。



平成29年度入省 (化学) 木曾川下流河川事務所 調査課 森岡 南帆さん

私は大雨による水害や高速道路の開通を経験したことから、社会資本整備の重要性を実感し入省を希望しました。現在は、木曾三川の河川計画に携わる仕事をしています。業務を通して、歴史ある河川であること、災害時に周囲に与える社会的影響が大きいことを学び、責任とやりがいを感じています。

入省して2年目のため、まだまだ分からないことも多いですが、経験豊富な上司の方々が丁寧に教えてくれます。職場の雰囲気もとても明るく活気があるため、困った時などは周囲の人に相談しやすいです。また、同年代の職員も多いため、それぞれの仕事のことや日常生活のことなどを情報交換しています。

今後も、様々な分野の業務に積極的に挑戦し、知識と経験を身につけていきたいです。そして、中部地方の安全・安心・発展に貢献するような仕事ができるよう精一杯努力していきたいと思っています。



平成20年度入省 (土木) 三重河川国道事務所 調査課 係長 細野 将輝さん

中部地方整備局の仕事の魅力は、自分たちが計画や設計をした工事によって水害や地震から大切な場所や人の命を守ることができることです。

私は河川系の職務についており、中でも洪水時の逃げ遅れゼロを目指し、市町の防災部局と連携しながら取り組みを進めています。近年、各地で発生した大水害を教訓に、大規模氾濫時を想定した浸水想定区域図の作成や子供たちへの防災教育の教材作成支援などにも取り組んでいます。洪水時のリスクや情報を地域住民の方にわかりやすく伝え、大水害が発生しても被害を最小限にできるよう関係機関と調整を図っています。

私たちの仕事は、自然災害から多くの人の命を守るために不可欠です。リスクマネジメントに対しては、いろいろな考え方があり、調整が難航することもあります。今後も水害から地域を守るために取り組んでいきたいと思っています。



平成4年度入省 (土木) 名古屋港湾事務所 企画調整課 課長 外山 裕司さん

私は海に関わる仕事をしたいと、入局しました。現在は名古屋港の新規事業の発掘、視察や広報等の業務に携わっています。

入局以来、空港会社や自治体への出向や東京勤務等、様々な業務を経験しました。中でも一番印象深いのが現在の所属の前に勤務した外務省への出向(在エジプト日本大使館)です。3年間の大使館勤務では、主に日本のODA(政府開発援助)の国土交通省案件(地下鉄整備、空港拡張)について、相手国政府の方との調整や日本の質の高いインフラ輸出に向けた調整などを行いました。

海外での生活は、日本以外の国の価値観や日本の素晴らしさを知ることができる等、自分だけでなく家族にとっても生涯の財産となっています。

このように中部地方のインフラを担当するだけでなく、希望をすれば海外勤務のチャンスもあるこの職場を選んで本当に良かったと実感しています。



昭和59年度入省 (土木) 愛知国道事務所 事務所長 高須 博幸さん

整備局の仕事は、ものづくり中部を支えるインフラを計画、整備し、メンテナンスする業務で、言い換えれば、「インフラの総合プロデューサー」といったところでしょうか。いずれの業務も整備局職員は、企画立案者あるいは執行管理者の立場で政府としての判断を行い、地域の期待に応えていく、という大変重要な任務を担っています。それゆえ、緊急的な業務等で大変な時期もありますが、皆さんが私ぐらいの年齢になる頃には、「一生の宝ものとして心に残る仕事」に出逢っているはずですよ。

また、職場の環境は、働き方改革の意識の高まりとともに、幹部から係員まで生活(家庭)との調和に努めており、とても働きやすい職場といえます。

昨今の大規模災害の頻発を背景に、国土強靱化の早期実現に向けて、整備局への期待は益々高まっています。さあ、「未来の設計図」を私たちと一緒に描いていきましょう。